

## 1. 地図記号

DMの地図記号表示について、記号が追加できるようにしました。以下、操作説明書からの抜粋です。

DMの地図記号については、インストールフォルダの DMSymbol2500.dxf, DMSymbol100.dxf, DMSymbol0500.dxf を参照して表示しています。地図記号を追加される場合は、インストールフォルダ下に[def]フォルダを作成し、そこにコピーを置いて編集してください。最初に DM データファイルを開く際に、上記 dxf ファイルをリードし、地図記号を表示します。例えば地図情報レベルが 2500 の場合、次の順序で dxf ファイルをリードします。

1. C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\def\DMSymbol2500.dxf
2. C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\DMSymbol2500.dxf

同じ分類コードと図形区分の地図記号がある場合、先にリードした方を使います。

地図記号 DXF ファイルの内容は以下のようになっています。

レイヤ名 = 分類コード(4桁の整数) + 図形区分(2桁の整数)

例えば、田(6311)の場合、レイヤ名は「631100」となります。

それぞれの記号の中心座標ですが、一覧できるように分類コードにより異なっています。

中心の X 座標 = 分類コードの上位 2 桁の値 x 10

中心の Y 座標 = 分類コードの下位 2 桁の値 x 10

例えば、田(6311)の場合、以下のようになります。

中心の X 座標 = 630.0

中心の Y 座標 = 110.0

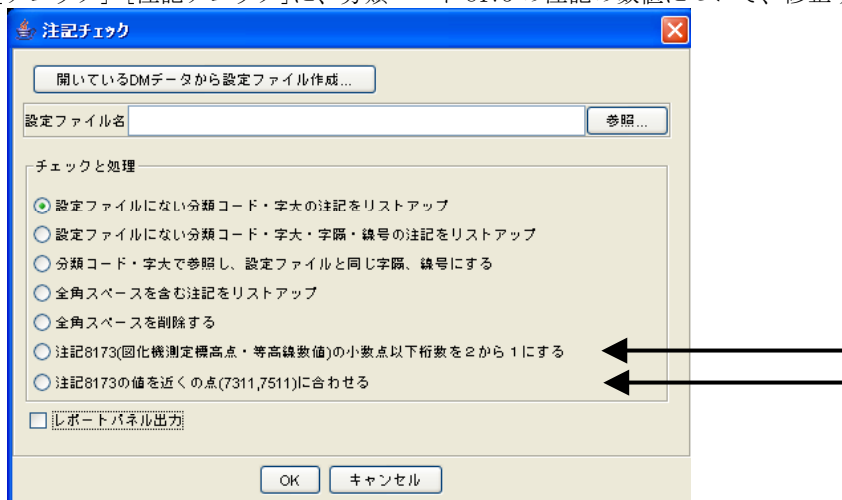
図形区分が異なる場合、中心は同じ位置で、地図記号は重なっています。非表示のレイヤはリードしません。

新たに地図記号を追加される場合は、新規にレイヤを追加し、その分類コードの中心座標を参照して図形を描いてください。地図記号として使えるエンティティはポリライン(POLYLINE)と線分(LINE)と円(CIRCLE)のみで、円弧、テキストなどは使えません。ポリラインはふくらみはサポートしていますが、スプラインなどには対応していません。DXF は AutoCAD Release12 タイプです。

地図記号の下に、分類コードのテキストがありますが、わかりやすくする為の表示で、プログラムからは参照しません。

## 2. 注記チェック

メニュー[チェック]-[注記チェック]に、分類コード 8173 の注記の数値について、修正する機能を追加しました。



- (8) 注記 8173(図化機測定標高点・等高線数値)の小数点以下桁数を 2 から 1 にする  
分類コード 8173 の注記の数値について、小数点以下の桁数が 2 桁以上の場合、1 桁にします。

(9) 注記 8173 の値を近くの点(7311, 7511)に合わせる

分類コード 8173 の注記の数値について、近くの図化機測定による標高点(7211)あるいはランダムポイント(7511)の Z 値と比較し、小数点以下 1 桁の値が異なっていれば、注記の値を修正します。注記を囲む矩形からの距離が実座標で 10.0m 以内で最も近い点を参照します。近くに点がない場合、[チェックリスト]にリストアップします。また[確認リスト]の表示で、注記と参照した点を結ぶ線を表示します。